

## 令和3年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(大館市)

### 1 市の概要(人口 69,957 人)※令和3年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和3年4月1日現在)						
幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
1園	0園	8園	10か所	0園	0園	17校

その他:へき地保育所7 地域型保育2 事業所内5 認可外2

### 2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
<p>(1) 教育・保育の質の向上に向けて、教職員の資質向上、園内リーダーの養成と園内研修の充実等の体制が構築されたが、それらの幼児教育センター機能を安定させていく必要がある。</p> <p>(2) 多様な保育施設、多様な働き方の職員が協働する中、市が目指す就学までに育てたい力、教育・保育の在り方を共通理解し、具体的実践に移していくには園ごとの温度差がある。</p> <p>(3) 小学校との情報共有、合同研修はあるものの、小学校入学後の生活や学習への適応や指導に困難を抱える事例が見られる。</p>

### 3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目的(3年間)	
<p>将来の自立を見据え、就学前の段階で育てるべき力を明確にし、教育・保育の一層の充実を図る。ふるさとキャリア教育の理念の下に、就学前から小学校低学年までを「人間的基礎力」を育成する時期として、関わる教職員が、子ども理解の在り方、教育・保育課程や指導方法等について共通理解を図り、連携を推進する。</p>	
主な内容(3年間)	
<p>(1) 教育委員会と子ども課の連携による幼児教育センター機能の運用 ・教育委員会教育研究所と福祉部子ども課、基幹保育園の連携体制による訪問指導、事業・研修会の共同開催</p> <p>(2) 教育・保育アドバイザーによる市内全園への巡回訪問・指導 ・教育委員会教育研究所に、教育・保育アドバイザー1名を継続配置 ・市福祉部子ども課の保育アドバイザーと本事業の教育・保育アドバイザーを核に据えた訪問指導体制</p> <p>(3) 教育・保育アドバイザー並びに市内全園の研修リーダーの養成、基幹保育園の公開保育による研究成果の発信 ・基幹保育園、園長会議、主任会議との連携による研究推進 ・基幹保育園以外の園、近隣市町村への研究成果の発信、研修機会の提供</p> <p>(4) 就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の充実 ・市主催による合同研修会、相互の研究会への参加の促進</p> <p>(5) 秋田県教育庁幼保推進課との連携体制の強化 ・県就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会への参加 ・最新情報を得ながら、県からの助言をもとにした体制や研究内容の見直し</p>	
年度別重点	
令和元年度	新メンバーによる指導体制を確立させ、基幹保育園以外の施設への周知を図り、訪問指導の要請、及び市主催研修会への参加を拡大していく。
令和2年度	教職員の資質向上に向けた研修会、幼保小連携体制を見直し、一層の充実を図る。
令和3年度	6年間の幼児教育センター機能の成果と課題を検証し、次年度からの指導体制や研修会の内容や運営を再構築する。

## 4 令和3年度の具体

**目的**  
 ○子どもたちの将来の自立を見据え、ふるさとキャリア教育の理念の下、就学前から小学校低学年までを「人間的基礎力」を育成する時期として、それに関わる保育者・教職員が子ども理解のあり方を教育、保育の指導や援助等について共通理解を図り、連携を推進する。

### 実施内容及び実施状況

#### (1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実

○ 教育委員会と子ども課の連携による幼児教育センター的機能の強化

- ① 教育委員会教育研究所と福祉部子ども課、基幹保育園の連携体制による訪問指導
  - ・ 子ども課の保育アドバイザー、教育研究所教育・保育アドバイザーの定期的な打ち合わせの実施、訪問、連携事業の推進
  - ・ 各園の要望に応じた訪問、研修への支援
  - ・ 基幹保育園園長会、所長会への参加、情報提供、助言(月1回)
  - ・ 基幹保育園主任会との連携による研究推進への助言(月1回)
  - ・ 小学校授業研究会への参加

#### ② 共同開催事業の実施

- ・ ことばと学びの小テスト(各小学校1回)～小学校1年生の児童対象に子ども課と小学校の通級指導教室が中心となって実施。就学後の学習の困難さを早期に気づき、自校での個別指導、通級指導教室、必要に応じて諸検査につながるために1学期中に実施。
- ・ 幼児通級指導教室「育ちの教室ぐんぐん」(9～3月)～入学前の集団生活での生活や学習に不安をかかえている年長児を対象に、少人数集団で通級指導を実施。
- ・ 満5歳すてっぷ相談(年間12回)～就学を見通し集団への不適応、人との関わりが苦手な子どもの早期発見、就学に向けた「生活習慣づくり」についての保護者への啓発のため、満5歳を迎えた年中児とその保護者を対象に検査・観察・講話・相談を実施。その子育て講話「小学校に入るまでにできてほしいこと」を教育委員会が担当。
- ・ 子ども課と小学校との連携による就学時健診の実施

○ 「育ちの教室ぐんぐん」、「満5歳すてっぷ相談」、就学時健診、諸検査を連動させ、就学情報支援ファイルを作成することにより、要検査児の早期発見と発達検査・心理判定の実施、在籍園・小学校への情報提供、関係機関との情報共有、保護者への継続的なサポートを可能にしている。

○ 教育委員会主催の研修会への保育士等の参加や発表者が増えており、幼保小の育ちや学びについての共有が図られている。大館市教職員夏季研修会(8/3)・教職員実践発表会(1/7)

#### ③ 研修会の実施

(市主催研修会)

- ・ 幼保小連携推進会議(5/17)
- ・ 保育補助研修会(5/31)
- ・ 幼保小担任合同研修会(6/1)
- ・ ファシリテーター研修会Ⅰ基礎編(6/4)
- ・ 保育実践研修会(7/8)
- ・ 発達支援セミナー(8/23 中止)
- ・ ファシリテーター研修会Ⅱ応用編(9/15 中止)
- ・ 主任等研修会(10/19)・5歳児研修会(11/25)
- ・ 園長等研修会(1/24)



【幼保小担任合同研修会での協議】

○ 研修内容についてアンケートを実施し、希望が多いもの、必要性の高いものを実施したことで多くの受講者があり、保育の質の向上につながっている。

△ 週日案や指導案の作成についての研修の要望が増えており、次年度の実施を考えている。今年度は、訪問指導により実施している。

※研修の詳細は(3)(4)に記載

**(2) 教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援**

- ・教育委員会教育研究所に、教育・保育アドバイザー1名を継続配置
- ・市福祉部子ども課の保育アドバイザーと本事業の教育・保育アドバイザーを核に据えた訪問指導体制

◇令和3年度アドバイザーによる巡回訪問・指導（大館市）

⑥派遣実績 計52施設/全52施設 189回	
回数	・幼稚園：私立1園（3回） ・保育園：公立10園（86回） ・幼保連携型認定こども園：私立8園（16回） ・その他の施設：（へき地保育所7園（32回）児童館0か所（0回）、地域型保育施設2か所（5回）、認可外保育施設2か所（6回）、事業所内保育施設5か所（7回）） ・小学校：17校（34回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、26園（84回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、5園（5回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、15園（18回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、49園（49回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、52園（105回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、21園（21回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、17校（34回））
理由	基幹保育園である公立保育園への年間を通した継続的な支援により、市が目指す保育の方向性を具現化するとともに、園内研修のモデルとして他園にも広げていく役割を果たす。私立園やへき地保育所には、継続的に研修支援のための訪問を増やしていく。子ども理解と接続等における教職員との相互理解のために幼保小との連携を図る。

- アドバイザーの役割や活用方法が周知され、訪問を希望する園が増えている。
- 園内研究の計画や、子どもの育ち・読み取りの共有方法、研究協議の進め方等への支援を希望する園が増えている。より具体的な助言により園内研修が深まるよう努めている。そのことにより、どの園でも研究への主体的な取組と深まりが見られるようになってきた。
- △認定こども園への訪問が課題。要請訪問への同行、毎月の連携日より配信の他にも、連携だよりの記事の取材等で訪問回数を増やしていきたい。

**(3) 専門性の向上のための研修の充実**

① 市主催研修会の開催

◇保育補助研修会（5/31） 初めて就学前教育保育施設に勤務した職員対象 22名参加  
内容「保育に向かう姿勢について」保育者としての基本的な態度やマナーについての講話後グループに分かれて、具体的な事例についてのワークショップを行った。

講師 前大館市福祉部子ども課 課長補佐兼保育アドバイザー 工藤英子氏

- 各園から最も要望が多い研修である。グループでのワークショップを行ったことにより、保育補助としての役割だけでなく、日頃の不安や悩みなどを出し合ったことや他園の状況を聞いたことが大変参考になったという感想が多く、好評であった。

△次年度も開催したいが、グループ協議の事例をさらに工夫したい。

◇ファシリテーター研修会Ⅰ（基礎編）（6/4） 各園のリーダー・主任等対象 40名参加  
内容「SOAPの視点」の理解、ファシリテーターの役割、KJ法の演習

講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 庄司伸子氏 指導主事 武石郁子氏

- 例題の子どもの姿から「どこに楽しさを感じているか」や「育っている力は何か」を読み取り子ども理解を深めていた。
- SOAPの視点で付箋に記入し模造紙を4段に分けてまとめた方法を自園でも同じように実践したいという感想が多く、実践に生かせる研修であったと言える。

△SOを整理してAPにつなげる段階に難しさを感じている参加者が多かった。訪問での助言に生かしたい。

◇保育実践研修会（7/8） 新規採用者から11年目保育経験者対象 26名参加

内容「伝承遊び」「絵本の読み聞かせ」「ふれあい遊び」  
「手作りおもちゃ」のワークショップでの実技研修  
講師 大館市公立保育園主任



【お気に入りの絵本の紹介】

<アンケートより>

- ・伝承遊び～初めて知る遊びもあった。保育士が遊びをたくさん知っていることが子どもの遊びを広げることにつながると思う。保育にもっと取り入れて次世代に伝えたい。
  - ・絵本の読み聞かせ～絵本は、読み聞かせだけではなく、園が保護者に気付いてほしいことを絵本を通して伝えることができる。絵本のもつ無限の可能性を感じ様々な場面で活用したいと思った。
  - ・ふれあい遊び～手遊びやふれあい遊びを通してたくさんのスキンシップを図り、子どもとの信頼関係を図りたい。
  - ・手作りおもちゃ～子どもたちが自分でおもちゃを作り、競い合ったり遊び方をさらに工夫したりする楽しさを体験できると感じた。自分の保育に取り入れていきたい。
- 昨年度も好評であり引き続き開催した。若年層を対象としたが、その後の訪問で学んだことを自分なりに保育に取り入れている姿を見ることができた。

◇発達支援セミナー（8/23） 看護師・保育士・サポーター対象(コロナ感染対策のため中止)

内容「ティーチャーズトレーニング」～発達障害にも周りの子にも有効な支援～  
講師：秋田県立比内支援学校 特別支コーディネーター 加藤弘子氏

◇ファシリテーター研修会Ⅱ(9/15)（応用編） 基礎編参加者対象(コロナ感染対策のため中止)

内容「SOAPの視点の活用」

講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 庄司伸子氏 指導主事 武石郁子氏

- ・前回の研修会応用編（6/4）に、自園での実践、またその成果と課題をまとめることが宿題となり、実物や写真等を持ち寄り発表することになっていたが、コロナ感染対策のため中止となる。園訪問時、研究の実践についてアドバイスをを行うことにした。

◇主任等研修会（10/19） 主任等27名参加

内容「保育の課題に向けた主任等の役割」 講師 釈迦内小学校 校長 花田一雅氏

<アンケートより>

- ・リーダーとして、自分はどのように役割を果たしていけばよいか見つめ直すよい機会となった。自身が新しい情報を職員に広めて共有することで園全体のレベルアップにつなげたい。
  - ・協同的な作業を通して、子どもの気持ちになりチームで協働する楽しさを体験できた。
- リーダーとしての自分を振り返り、目指すリーダー像に向かって前向きに役割を担っていきたいという感想が多かった。
- △来年度は、指導案の各年齢のねらいについての演習を考える。



【マシュマロチャレンジ】

◇5歳児研修会（11/25） 5歳児担任 30名参加

内容「就学を見通した5歳児後半の保育について・保育要録について」

講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事庄司伸子氏、指導主事武石郁子氏

<アンケートより>

- ・5歳児の現状を改めて確認できた。また、今のクラスの様子を改めて書き出し、他園の先生と情報交換をしたことで就学に向けて目指す子どもの姿の見直しもできた。
- ・何度年長を経験しても、要録の記入の仕方は迷う。今回のように実際に記入してグループで見合うことがとても参考になった。

- ・何年ぶりかの5歳児担任で、要録の書き方も変わっていたので、具体的な記入の演習ができとても参考になった。
- 要録の記入について、グループでの演習が効果的であった。
- △毎年実施している研修会であるが園や保育者のニーズを明確にして講師に伝える必要がある。

◇園長等研修会 (1/24) 園長・主任等 35名参加

内容「大館市の学校教育の現状を踏まえ、系統的な連携を持つための施設長の役割とは」  
講師 大館市教育委員会 教育監 山本多鶴子氏

〈アンケートより〉

- ・大館市が教育委員会と子ども課、関係機関とつながり子どもの育ちを支えていることを改めて実感した。
- ・個別の支援計画が統一されることはありがたい。この機会に職員間で共通理解を図り取り組み、小学校につなげたい。
- ・メディアコントロールについては園でも課題として捉えている。家庭教育支援としてなんとか実践していきたい。



【山本教育監の講話】

② 基幹保育園ミニ公開保育の開催

大館市就学前教育・保育施設職員を対象に公立保育園9園の保育を公開することにより、自園の保育の質の向上につなげることをねらいとして実施した。事前に各園の研究テーマとサブテーマを情報提供し、参加者が自園の研究に生かせるようにした。また、小学校の教職員も参加できるように、夏季休業日に開催した園が多かった。しかし、新型コロナウイルス感染対策のため、参加者は各園1名に限定したり警戒レベルが上がったことにより中止した園もあったりした。中止した園にはアドバイザーが訪問し、保育や研究実践についてのアドバイスを行った。

◇城南保育園 (8/5) 小学校長、関係者評価委員ほか、就学前施設職員 17名参加

〈アンケートより〉

- ・保育者が気持ちにゆとりをもって子どもと接している姿が印象的でした。子どもにすぐに注意したりせずに、時には様子を見ながら子どもと一緒に考えながら知らせていきたい。

◇東館保育園 (8/11) 小学校教頭ほか、就学前施設職員 15名参加

〈アンケートより〉

- ・自然の中でのびのびとたっぷりと水、砂、虫、仲間とたわむれる子どもたちの姿が最高だった。
- ・年齢によって子どもと保育者の関わり方や距離の取り方が違い、子ども同士の関わりを大切にしていることが分かった。



【ミニ公開保育5歳児の遊び】

◇西館保育園 (8/12) 小学校校長、関係者評価委員ほか、就学前教育・保育施設職員 15名参加

〈アンケートより〉

- ・園庭や保育室の構成や先生方の共感的な関わりにより、一人一人が主体的に自由に遊べる環境になっていた。

◇たしろ保育園 (12/10) 小学校校長、教諭、関係者評価委員ほか、就学前施設職員 15名参加

〈アンケートより〉

- ・園内・園庭がとても広く、活発な遊びが多い。子どもたちがとても楽しそう。広い敷地を生かした遊びが、各年齢、発達過程に合わせて展開されていた。

※その他5園はコロナ感染対策のため中止

○ミニ公開保育を参観することで、自分の保育の方向性を考えたり環境の構成の参考にしたりしようとする前向きな声が多かった。

△小学校の校長、教頭だけでなく教諭の参観も増えてきたが、さらに増やしたい。

△来年度は、基幹保育園以外にもミニ公開保育を提供してくれる園を増やしていく。

●新型コロナウイルス感染対策のため研究協議への参加ができず、日程についても今後検討が必要。

- ③ 基幹保育園（5園）主催の研修会：オーダーメイド研修会  
 ・園長会で研修会内容が重ならないように調整し、多様な研修を受講できるようにした。

実施園	実施日	内 容	講 師	参加者
たしろ保育園	7/30	「子どもの事故防止」～子どもの特性や考えられる事故とその予防	日本赤十字社秋田県支部 稲岡 一枝氏	27
有浦保育園	11/16	「すぐ活用できる！新聞紙で作るカバン」	秋田魁新報大館販売所 阿部 美菜子氏	13
城南保育園分園	12/2	「子どもの発達と遊び～卒園までに育てたい力～」	大館市福祉部子ども課巡回支援専門員 畠山佳子氏	32
城南保育園	12/22	救命救急～AEDの使い方と実技～	大館市消防署職員	22
扇田保育園	2/1	「折れない心の育て方」	ファミリーネットワーク 代表 村岡 昇氏	28

○各園ともに、保育者のニーズに応じた研修が実施できている。

- ④ へき地保育士会研修会(6/10) へき地保育士等20名参加  
 内容 「日誌の記入について」持参した日誌をみながらの勉強会  
 講師 市教育・保育アドバイザー

○SOAPの視点での記録と日誌の記入への活用について理解を深めることができた。  
 ○園訪問、要請訪問以外にへき地保育所独自の研修会開催は、大きな成果である。

#### (4) 小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実

- ① 就学前教育施設と小学校との円滑な接続のための支援

##### ◇小学校の授業参観・保育参観・交流

- ・たくさんの小学校で園の先生方による1年生の授業参観が実施されている。1学期の早い段階で、授業参観と情報交換、交流の打合せをしている。また、PTA授業参観日やみんなの登校日に保育園の先生を招待する学校もある。秋に授業参観を計画している学校では、先生方だけでなく、年長児も参観するという試みも始まった。保育園側からは、要請訪問や関係者評価、園行事に小学校の職員を招待している園が多い。
- ・子ども同士の交流も大変多く、農作業に園児を招いて一緒に活動する交流や、生活・総合の時間に保育園を訪問する交流も計画されている。また、連絡協議会を組織している学区では、園児・児童（生徒）のめざす子どもの姿や共通実践事項を話し合っている。学区の子どもの育ちを保・小（中）で、また、地域とも共有しながら取組を決めて実践している。



「授業で子どもが困った時に、先生がよく見ていてアドバイスをしたり友達に聞いてカバーしてもらっている様子がとてもよかったです。保育園でも、困った時には先生や友達に相談したり助けを求めたりできるように育てていきたいと思いました。」

〈1年生の授業を参観した保育士の感想〉

##### 【保育者による授業参観】

○入学前の早い段階で1年生の授業を参観し話し合うことは、入学後の1年生の適応状況について情報交換したり子どもの育ちを共有したりして今後の支援に生かす上でも大変有効であった。また、スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムの見直しにもつながっている。

○保育園の保育の参観に、校長、教頭、1年生の担任だけでなく、全職員が参加するところや、その後の研究会にも参加する小学校が増えてきた。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共通理解のために有効な実践である。

△夏休みに実施する園のミニ公開に小学校の先生方を招待する予定の園が多かったが、コロナ感染対策により中止になった園もあり残念であった。次年度は、年間を通してなるべく多くの教諭が参観できる計画を考えてもらう。

#### ◇幼保小連携だより「つなぐ」の定期発行（月1回）

- ・大館市の全就学前教育・保育施設(35施設)のほか、小学校、北教育事務所、市教育委員会、子ども課に配布。
  - ・わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業について、「大館の保育・教育を語る」の連載、就学前教育・保育と小学校の教育の連携のための情報提供、研修・訪問の実施状況、感想等を掲載している。
  - ・保育と教育双方の理解を進めるための特集として「発達・学びをつなぐスタートカリキュラム」の実践例、「『10の姿』で考える幼保小のつながり」などを特集した。
- 園と小学校との交流、小学校職員の保育参観、研究協議への参加、幼保小連携便りによる情報提供等により、小学校職員の保育への理解が深まってきている。
- △他地区の連携だよりを参考にして、さらに見やすい、読みやすい紙面の構成を心がけたい。また、特集記事は、保育・教育現場のニーズに合わせたものを作っていきたい。

#### ② 就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の実施

##### ◇幼保小連携推進会議（5/17） 幼保主任・小学校教頭 51名参加

「育ちや学びの連続性を踏まえた円滑な接続について」

秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 武石郁子氏

「大館市の早期からの教育相談・支援体制の取組について」

大館市教育委員会 教育監 山本多鶴子氏

「今年度の連携計画について」各小学校区毎のグループ協議

- 「円滑な接続に関するチェック表」を基に話し合いを進め、これまでにしていなかった取組を計画する学校区が多く、連携の意欲の高まりを感じた。

##### ◇幼保小担任研修会（6/1） 年長児、小1担任 53名参加

「円滑な接続のためのスタートカリキュラムについて」

秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 武石郁子氏

「大館市の学びの接続のための推進『ことばと学びの小テスト』について」

大館市立扇田小学校 通級指導教室担当教諭 松村和子氏

「今年度の連携の具体的な取組」各小学校区毎のグループ協議

- 学区毎の協議では、担任同士で子どもの情報交換や交流の具体的な計画案が活発に話し合われた。年長児による小学校の授業参観や園の研究協議への参加、小学校教諭による夏休みの保育体験など、新しい取組もあった。

##### ◇大館市教職員夏季研修会（8/3） 就学前全施設職員・小・中・高・大学教職員 70名参加

「発達障害のある子どもへの支援と保護者対応について～相談支援の実践から～」

秋田県発達障害者支援センターふきのとう秋田 相談員 大越杏沙氏

- 社会人としての安定した生活のためには、幼児期からの自己理解や適切な支援が大切であることを就学前施設職員と小・中・高の教職員とで共有することができた。

##### ◇大館市教職員実践発表会（1/7） 就学前全施設職員・小・中学校教職員 434名参加

- 就学前施設からも乳児保育園と認定こども園の2つの実践発表があり、小・中学校の教職員もその分科会に参加し、保育への理解を深めた。

**(5) 秋田県教育庁幼保推進課との連携**

- ◇ 県主催協議会・研修会、教育・保育アドバイザー連絡協議会への参加
  - ・園長等運営管理協議会(5/27) ・就学前・小学校等地区別合同研修会(7/29)
  - ・キャリアアップ研修マネジメントⅠⅡ(9/17, 11/19) ・教頭・主任等研修会(11/2)
  - ・教育・保育AD連絡協議会(4/28, 6/17, 8/26, 10/14, 12/22)
  - ・県就学前教育推進協議会(11/26) ・県アドバイザーによる支援訪問(12/14)
- アドバイザー研修では、他市の事業内容や進め方、アドバイザーとしての関わり方、保育の見方などを学び、本市の事業に生かすことができた。
  
- ◇ 秋田県教育庁幼保推進課との連携体制と役割分担の明確化
  - ・北教育事務所指導主事等との打合会の開催(年2回)
  - ・県幼保推進課・北教育事務所の要請訪問への同行(23施設)
- ＜具体的な連携＞
  - ・北教育事務所指導主事による市の事業や研修への支援・協力
  - ・市アドバイザーが依頼文書、研究内容、指導案について事前に確認し、各園に助言、訂正依頼をする。それを受けて、北教育事務所から各園に日程・内容を確認。
  - ・同行訪問では、子どもの姿や保育者の関わり、環境の構成等で気付いたことを指導主事と情報交換し共有する。
- 要請訪問に至るまでの過程について幼保推進課・北教育事務所指導主事と役割分担をすることで、アドバイザーの行うことが明確になった。
- 県による教育・保育アドバイザー等の研修や、県教育庁北教育事務所要請訪問への同行により、アドバイザーとしてのスキルアップにつながり、園訪問での助言に生かすことができた。
- 北教育事務所指導主事の協力を得て要請訪問の総括を連携便りに掲載することができ、全園で成果と課題を共有できた。
- △各園の研究内容や指導案への助言は、4～5月中に日程を調整し、できれば要請訪問前に行いたい。指導主事と連携し、園長会、主任会等でも作成のポイントについて説明したい。

**5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(R元～R3)の成果と課題**

- 県や市主催の研修会が定着し、多くの受講者がある。県や市の目指す教育・保育のあり方が周知されてきている。また、様々な研修会や園長会等、主任会等で市アドバイザーの業務内容やメリットを伝えてきたこと、早い段階で園内研究に取り組める体制を構築してきたことで、毎月の園内研究に市アドバイザーの継続的な支援を求める保育園が多くなりその効果を実感している。
- 市主催の各研修会や実践発表会等の講話等により、就学前教育の教育・保育の在り方、保育と小学校教育の内容や育ちをつなぐ組織やツールが示され、大館市の目指すところが明確になった。
- 公開保育研究会や各園の要請訪問等には、小学校の教職員はじめ、近隣の園からの参加も増えてきている。開かれた園づくりと公立・私立、設置形態を越えた学び合う関係性ができつつある。
- 幼保小連携推進会議、幼保小担任研修会の申込率が100%となり、全小学校、全園が必要性を認識していることが分かる。小学校教諭からは、「就学前に蓄えてきた経験が生活科をはじめとする各教科の中に生かされていると感じる」ということや、「園で『聞く・話す』姿勢が育てられていることが小学校の学び合いの授業を支えていることを実感している」などの成果が伝えられている。成果を互いに共有することが、さらなる連携の意欲につながっている。
- △小学校教諭の保育参観や研究協議への参加が増えることで幼保小の連携がさらに強まると思われる。各小学校への呼びかけを見通しをもって進めていきたい。また、「育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点として参観したり、育ちを語り合ったりすることができるように、小学校教諭の理解を深めるための手立てをさらに工夫していきたい。
- △認定こども園へは連携便りの取材等で関係性を高め、訪問回数の増加につなげていきたい。
- △僻地保育所は園児数の減少により集団としての保育の質が保たれていくのか心配なところもある。保育の他、所の運営や研究、職員の育成の悩み等への助言の機会を増やしていきたい。
- 新型コロナウイルス感染防止のため、近隣の市との交流や情報交換がほとんどできずにいる。来年度の課題である。